

暖かい日差し、いよいよ春です！
しかし私は目がかゆくてたまりません(涙)花粉の季節がまたやってきました。当院では大人の花粉症のお薬も処方しています。
抗アレルギーの効用には個人差があります。点眼薬もいくつかタイプがありますので、お子様の御診察の際、ぜひスタッフにご希望をお聞かせください。

院長 池澤滋

感染症情報 1/22~2/18	前回	今回
アデノウイルス	33	25
溶連菌感染症	19	12
感染性胃腸炎	57	44
水痘(水ぼうそう)	1	1
手足口病	4	4
突発性発疹	3	1
おたふくかぜ	0	1
カンピロバクター	0	1
新型コロナ	20	38
新型コロナ+インフルB	0	1
インフルエンザA	69	33
インフルエンザB	38	236
インフルエンザAB	1	1



実話
「毎月楽しみです」「励まされ」
いつも読んで頂きありがとうございます！
過去の通信はぜひホームページから。

4コマまんが
作・絵
ちえこ&きみこ



- ★クリニック予約
 - ★クリニックホームページ
 - ★いけざわ beauty(インスタ)
 - ★クリニック Instagram
- こちらから→ → →



奇跡の免疫力



昨年6月。コロナウイルスが5類に移行し行動制限がなくなった際、当院はマスクを外しました。当時は賛否両論あり、福岡の研修センターで働く研修医の娘も「早すぎるのでは」という意見でしたが院長の方針により外すことに。以来ほとんどのスタッフがマスクを外しておりますが、中でも院長は一日200人の診察をしても全く熱を出すこともなくインフルエンザやコロナで寝込んだこともなく…毎日絶好調という奇跡のような毎日を過ごしております。

2019年から2022年、22カ国全ての国でコロナが感染拡大して以降、インフルエンザの感染者は著しく減少しました。これは「ウイルス干渉」によるものと言われています。気温が下がると粘膜の働きが弱まり、免疫力が低下してしまうとウイルスが体内に侵入しやすくなります。コロナが流行していた3年前の冬、インフル患者数は激減。1つの医療機関の1週間当たりの患者数を示す定点報告数は0.01を下回り、インフルエンザが過去3年の平均の100分の1未満だったそう。しかし、昨年コロナの流行が終わった途端『今度はオレたちの番だ』とばかりにインフルエンザウイルスが猛威を奮ってきました。当院もこんなにインフルエンザの検査ばかりするのは数年ぶり、現在は(B)が流行中。コロナの方が数名出ても、やはり圧倒的にインフルが流行しています。春は卒業式に入学式、イベントを控えている方もたくさんおられるでしょう。その前に受験生を持つご家庭も。かかってしまう病気は仕方ないと思うのですが



(水ぼうそう)や(おたふくかぜ)など、自費であっても防げる病気についてはぜひワクチンをおすすめします！『かかった方がいいと思って』『ワクチンをしてもらってもかかると聞いて』そういった理由でワクチン接種を選択しない保護者さんもおられます。しかし大切な行事に参加できず涙を流す親子を私たちはこの20年の間に何人も見てきました。自費だと5000円以上。かかると無料ではありますが、時に髄膜炎や難聴の合併症が懸念され、保護者の方は数日仕事をお休みすることになります。



遥か30年前、なんと私は20歳のお正月に水ぼうそうになり緊急入院をしました。数日隔離室で点滴をしましたが入院費用は当たり前ですが〇万円。ですから皆さまにはぜひ備えて頂きたいです！

さて、院長の免疫力について話を戻しますがいつもクヨクヨせず、気持ちが前向きで明るいということが病気を寄せつけない秘訣ではないかと思えます。すごく疲れているはずなのに「疲れた」も「やる気が出ない」も夫の口から聞いたことがありません。もし出そうになった時は「元気に働けて幸せだね」「ありがたいね」と。有ることが難しいと書いて「有難い」というものですが、夫はその言葉の意味を心から実感しているように思います。

『病は気から…』昔は何となく信じ難い言葉でしたが、明るく朗らかな夫のそばで、その魔法の言葉を信じずにはいられなくなりました^^。

